

明和児童クラブだより

第3号
2020年7月21日発行
(文責) 鷺頭

今年度最初の避難訓練を実施しました。

7月8日(水)に、今年度1回目の避難訓練を実施しました。今回の避難訓練は地震を想定しての訓練でした。

児童は最初に、地震発生の放送を聞いて、「ダンゴムシのポーズ」でテーブルの下に頭をかくしました。

次の放送では、「お・は・し・も」の約束を守りながら、それぞれの部屋から外の集合場所に避難しました。避難訓練の全体をとおして概ねよくできたと思います。

今回は、集合場所での整列も、「密」にならないように、感覚をあげました。



夏休みの児童クラブについて

(1) 諸行事の自粛について

例年、明和児童クラブでは、「パソコン教室」や「子どもの歌のつどい」等々様々な行事を夏休みに実施しております。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染予防のために、諸行事は自粛させていただきますのでご理解願います。

(2) 宿題などを持たせてください

今年度も、一日の中に「宿題・勉強タイム」を設けます。1時間以上は、宿題やそのほかの勉強をする時間になりますので、その時間に取り組めるものを、児童に持たせてください。

(3) 登所日の再検討について

詳細は別紙通知をご覧ください。「密」になることを避けるために、できる範囲でのご協力をぜひ、お願いします。

来年度からの利用料の変更について

明和児童クラブでは、臨時保育料、土曜午前保育料、延長保育料、長期会員保育料について、それぞれの料金のバランスをとるために、来年度より以下のとおり利用料を変更させていただくことになりました。ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

	今年度の料金		来年度のからの料金
○臨時利用半日保育料	1,000円	⇒	1,000円(変更なし)
○土曜日午前保育料	200円	⇒	600円
○延長保育料	500円	⇒	200円
○長期会員夏休み保育料	13,000円	⇒	15,000円
○〃春休み・冬休み保育料	5,000円	⇒	6,000円
※参考	通年会員の夏休み利用料は、平成31年度から、すでに3000円値上げをし、春休み・冬休み保育料は、400円値上げしています。		

「子育てのあれこれ」のコーナーについて 今年度も、「子育てに関すること」について、情報を提供しながら保護者の皆様方と、いっしょに考えさせていただききっかけになればと、このコーナーを設けさせていただいています。

子育てについては、様々な学説や意見等があります。しかし、TV番組や講演会、書籍などは、科学的な根拠に基づかない主観的な主張や、理論的な裏付けのない偏った主張なども最近をよく見聞します。私自身は、子育てもほぼ終わりになるのですが、今までの職業がら、未だに子育てについては勉強中です。しかし、勉強をしていく中で、「もう少し早く、この子育ての情報を知っていればよかったのに・・・」と思えることが多いのが現実です。

そこで、私とは違って、子育ての真っ最中である保護者の皆様方に、少しでも役に立つような情報を提供できたらと考え、このコーナーを設けている次第です。このコーナーでは、児童心理学や脳医学、精神医学等々、できる限り科学的な根拠に基づいた子育てに関する理論や考え方、事例等を、毎回という訳にはいきませんが、時々紹介させていただこうと思います。なお、以前のコーナーとの関連性に触れることがあるかも知れないので、コーナーのNO.は一昨年度からの続き番号にしてあります。

(文責=驚頭)

子育てのあれこれ No.8

自分自身の子どもへの対応を振り返ってみるといつも失敗ばかりで、難しいなとつくづく思います。そこで今回は、「子どもへの言葉かけや対応の仕方」について、ある事例について考えてみたいと思います。

..... 事 例

小学校5年生になったA君は、Bクラブというサッカーのスポーツ少年団に入り、毎週土曜日にある練習に5回ほど通いました。しかし、6回目になる日の朝、突然、サッカーをやめたいと言い始めました。A君は、今までも、本人の希望で、スイミングや英語塾に通ったことがあったのに、どちらも続かなかったので、母親は、またかと思い、次のような言葉のやりとりの末、どうしたらいいのか分からなくなってしまいました。

A君：「Bクラブはもうやめることにしたんだ！・・・いいでしょう？」

母親：「サッカーだけは、絶対に続けるっていう約束だったでしょう！！」

A君：「だって、C君もやめるって言っていたよ。」

母親：「C君のことは関係ありません。どうしてやめるって言うの！」

A君：「・・・」

母親：「やめるのは絶対にだめです！！」

A君：「でも、今日はいかない！！」

母親：「勝手にしなさい！」

「自分が決めたことはすぐにあきらめずに続けられる子になってほしい」ということは、親ならば誰でも願うことです。しかし、上の事例では、**母親が自分の考えや思いを先に言葉に出してしまったことが、失敗だった**と思えます。

まず、**いちばんまずい言葉が、「サッカーだけは、」という言葉**で、「スイミングや英語塾のことも責めているんだ」ということを子どもは感じとってしまいます。よく、おけいこごとについて、「子ども自身がやりたいといったから通わせている」という話を聞くのですが、場合によっては、親の顔色を敏感に察知した子が、「親に喜んでもらうためにそのように言った」ということも案外多いようです。振り返ると、我が家においてもそんな失敗はありました。

次に、「**どうして**」という言葉も**注意しなければならない言葉**です。「どうして」という言葉は、子どもにとっては詰問となるからです。もしかしたらA君は、「思っていたよりも練習がきつかったからやめたい」のかも知れませんが、正直にそんなことを言ったら余計に叱られることは分かっているから黙り込む以外ありません。

子どもへの対応や言葉かけで大切なのは、まずは、気持ちを受け入れることだとされています。そのうえで、**望ましい自己決定ができるように導いていく**ことが重要です。上の事例での母親の言葉としては、次のような例が考えられます。

「そう、サッカーはやめるの。」「サッカーをやめたくなくなってしまったんだね。」「何かつらいことがあったんだね。」「つらい思いをしていたんだね。」などと感情をまず受け入れてあげることが大切です。そのうえで、「Aちゃんがつらかったのは、よく分かったよ。どうするかは、Aちゃんが決めることだけど、お母さんは、Aちゃんがもう少し続けてくれるとうれしいな。」などと、自己決定を促していくことが考えられます。

*参考文献 「子どもの能力の見つけ方・伸ばし方」「『心の基地』はおかあさん」「親がすべきこととしてはいけないこと」(平井信義)、「アドラー博士の子どもを勇気づける20の方法」「『失敗に負けない子』に育てる本」「頭のいい子より賢い子を育てるしつけ方」(星一郎)、「学校で出来ること出来ないこと」(外山滋比古) 他

